

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	愛媛大学
設置者名	国立大学法人愛媛大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
法文学部	人文社会学科	夜・通信	23	-	42	65	13	-
	総合政策学科	夜・通信						
	人文学科	夜・通信						
	人文社会学科	夜・通信						
	総合政策学科	夜・通信						
	人文学科	夜・通信						
教育学部	学校教育教員養成課程	夜・通信	198	-	7	228	13	-
	特別支援教育教員養成課程	夜・通信			3	224		
	総合人間形成課程	夜・通信			-	221		
	スポーツ健康科学課程	夜・通信			-	221		
	芸術文化課程	夜・通信			-	221		
社会共創学部	産業マネジメント学科	夜・通信	11	-	12	46	13	-
	産業イノベーション学科	夜・通信			14	48		
	環境デザイン学科	夜・通信			8	42		
	地域資源マネジメント学科	夜・通信			14	48		

理学部	理学科	夜・通信	23	11	-	34	13	-
	数学科	夜・通信			-	34		
	物理学科	夜・通信			2	36		
	化学科	夜・通信			8	42		
	生物学科	夜・通信			-	34		
	地球科学科	夜・通信			-	34		
医学部	医学科	夜・通信	-	90	113	19	-	
	看護学科	夜・通信		98	121	13		
工学部	工学科	夜・通信	23	-	2	25	13	-
	機械工学科	夜・通信			14	37		
	電気電子工学科	夜・通信			8	31		
	環境建設工学科	夜・通信			12	35		
	機能材料工学科	夜・通信			8	31		
	応用化学科	夜・通信			-	23		
	情報工学科	夜・通信			2	25		
農学部	食料生産学科	夜・通信	23	3	34.5	60.5	13	-
	生命機能学科	夜・通信			26	52		
	生物環境学科	夜・通信			35	61		
	生物資源学科	夜・通信			95.5	121.5		
(備考)								
<p>【平成 28 年度募集停止】</p> <p>法文学部 総合政策学科、人文学科 教育学部 総合人間形成課程、スポーツ健康科学課程、芸術文化課程 農学部 生物資源学科</p> <p>【平成 31 (令和元) 年度募集停止】</p> <p>理学部 数学科、物理学科、化学科、生物学科、地球科学科 工学部 機械工学科、電気電子工学科、環境建設工学科、機能材料工学科、 応用化学科、情報工学科</p>								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページ URL http://info.ehime-u.ac.jp/syugaku/stu/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 -

(困難である理由)

-

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	愛媛大学
設置者名	国立大学法人愛媛大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/overview/about/officer/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	他の国立大学法人	2018年4月から 2021年3月末まで	総務・施設
(備考)			
2020年4月1日までに、複数の学外者である理事の選任を確実に実施する。 (非常勤理事は2020年4月1日就任予定)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	愛媛大学
設置者名	国立大学法人愛媛大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学では、毎年度、「シラバス登録の手引き」に基づき、前年度の1月末日を目途に担当教員が授業計画(シラバス)を作成し、3月上旬には「シラバスデータベース」として大学ホームページ上で公表しています。</p> <p>具体的な項目として、授業の題目・キーワード・目的・到達目標、ディプロマ・ポリシーや愛大学生コンピテンシー※1との関係、授業概要、授業スケジュール、授業時間外学修に関する情報、成績評価方法、受講条件、受講のルール、教科書、参考書、オフィスアワー、担当教員の連絡先等を記載しています。</p> <p>※1 愛大学生コンピテンシー：愛媛大学の学生として卒業時に身につけていることが期待される能力(育成したい学生像)。5つの能力と12の具体的な力で構成されている。 https://www.ehime-u.ac.jp/overview/competency/</p>	
授業計画書の公表方法	<p>大学ホームページ https://campus.ehime-u.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>本学では、学則第20条に「授業科目を履修した学生に対しては、試験の上、単位を与えるものとする。」と規定するとともに、第21条第2項に「各学部は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。」と規定しています。</p> <p>また、「学業成績判定に関する規程」において、学業成績は試験(筆記、レポート、口頭等)及び平素の成績(研究報告、小考査、学習状況等)を総合して判定することを明記しています。出席時間数の取扱いとして「各授業科目につき、その開講時数の3分の2以上出席していない者については、その授業科目の学業成績は、判定しない。」こととしており、シラバス作成時には、「出席を学業成績判定の評価基準」としないよう喚起しています。</p> <p>さらに、成績判定に関する学生からの申立ての機会も制度化し、ガイドラインを作成しています。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学生自身による学習プロセス及び達成状況の自己管理に役立てるとともに、教員による学生の学修状況の把握及びきめ細やかな指導・助言を行うために全学共通GPAを導入しており、入学生全員に配付する冊子「共通教育履修案内」に明記しています。

学生のGPAは、修学支援システムにより、学生本人及び学生生活担当教員が把握することができ、また、学生の履修指導等に使用する「学修ポートフォリオ」にも明示されます。

各学部においては、「成績不振学生の基準」(単位修得状況やGPA、出席状況等)を定めており、定期的に教育学生支援会議で現況や対応状況について情報共有するとともに、必要に応じて全学組織である学生支援センターがその対応に加わっています。

全学共通GPA

全学共通GPA(成績平均値)…学生自身による学習プロセス及び達成状況の自己管理に役立てるとともに、教員による学生の学修状況の把握及びきめ細やかな指導・助言を行うために使用します。

計算方法

履修登録した科目の成績評語を次の表のようにGP(grade point)に置き換えます。
GPと成績評価点

GP	評語	計
4	秀	90~100
3	優	80~89
2	良	70~79
1	可	60~69
0	不可	60点未満
0	評価しない	出席不足など評価基準に達しない

全学共通GPAは、このGPを用いて以下の式で計算します。

$$\text{全学共通GPA} = \frac{4 \times \text{「秀」の単位数} + 3 \times \text{「優」の単位数} + 2 \times \text{「良」の単位数} + 1 \times \text{「可」の単位数} + 0 \times \text{「不可」} \cdot \text{「評価しない」の単位数}}{\text{総履修登録単位数 (「不可」・「評価しない」を含む)}}$$

※共通教育科目及び専門教育科目の全ての科目が対象となります。ただし、「認定」、「合格」で評価された科目及び履修登録科目の取消を行った科目はGPAの計算式に入りません。

※この他に各学部で独自の目的で使用する目的別GPAがあります。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

大学ホームページ
https://www.ehime-u.ac.jp/campus_life/class/credit/

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>大学として、また各学部・研究科として、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、大学ホームページ等で公表しています。</p> <p>また、本学では、学則第 21 条第 2 項に「各学部は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。」と規定しています。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>(大学のディプロマ・ポリシー) https://www.ehime-u.ac.jp/faculty/educational_policy/policy_3/ (各学部・各研究科のディプロマ・ポリシー) https://www.ehime-u.ac.jp/faculty/educational_policy/policy_3_dept/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	愛媛大学
設置者名	国立大学法人愛媛大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/disclosure/legal/affairs/
収支計算書又は損益計算書	大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/disclosure/legal/affairs/
財産目録	-
事業報告書	大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/disclosure/legal/affairs/
監事による監査報告(書)	大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/disclosure/legal/affairs/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:平成31年度年度計画 対象年度:平成31年度)
公表方法:大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/disclosure/legal/business/
中長期計画(名称:第3期中期目標・中期計画 対象年度:2016年度~2021年度)
公表方法:大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/disclosure/legal/business/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/disclosure/legal/business/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/disclosure/legal/business/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

<p>学部等名 法文学部</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ 愛媛大学規則集 http://kiteisv.office.ehime-u.ac.jp/iddesk/）</p>
<p>○法文学部規則（第 1 条の 2）</p> <p>学部は、学校教育法、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章を踏まえ、幅広い教養と人文・社会科学の専門的知識に立脚しつつ、より高度で創造的な問題発見・解決能力と総合的な判断力を備え、社会的役割を自覚し主体的に行動できる人材を育成するとともに、深く人文・社会科学分野の学芸を教授研究することにより、地域に根ざした学部として社会と文化の発展に貢献することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/1.law_.pdf）</p>
<p>○法文学部のディプロマ・ポリシー (知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い教養と人文社会諸科学の基本的な知識を身につけている。 2. 人文社会諸科学のいずれかの分野の専門的知識と技能を身につけている。 <p>(思考・判断)</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 人間・文化・社会の在り方について、グローバル・マインドに立脚した多角的な視点から、論理的にかつ客観的に分析し考察することができる。 4. 課題を自ら設定し、それぞれの学問領域の研究手法に即してその解決策を考えることができる。 <p>(興味・関心・意欲、態度)</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. つねに学び続け、身につけた知識・技能を活かしてグローバル化した現代社会に貢献しようとする意欲をもっている。 6. グローバル化した現代社会において、様々な人と協働することができる。 <p>(技能・表現)</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することができる。 8. グローバル化した現代社会において活躍できる、的確なコミュニケーション能力をもっている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/1.law_.pdf）</p>
<p>○法文学部のカリキュラム・ポリシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位授与方針を実現するために、共通教育においては、全学の教育方針に従って、汎用的能力と語学力の基礎及びスタディスキルとソーシャルスキルの基礎を身につける科目を履修させるとともに、幅広く教養教育科目を履修させることによって、大学における学びの基礎と幅広い教養を身につけさせる。 ・その基礎の上に、専門入門科目として、人文社会諸科学に関する基礎知識を修得させる科目、日本文化及び現代日本に関する科目、日本語の十分な運用能力を涵養する科目を配置する。 ・専門の履修コースとして、各学生に専攻分野を中心とする専門科目（【専門基盤科目群】【専門展開科目群】【演習科目群】）を体系的に履修させ、さらに、学びの成果を社会に活かす実践知を涵養する科目として、アクティブ・ラーニングの手法を全面的に取り入れた【実践科目群】を設定する。またさらに、学生個々の興味関心にしたがって自由に学びを広げたり深めたりすることができる【自由選択】を設定する。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/1.law_.pdf）</p>
<p>○法文学部のアドミッション・ポリシー <求める入学者像></p> <p>(知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校で学習する国語、外国語、地理歴史、公民、数学、理科などについて、高等学校卒業相当の知識と技能を有している。 <p>(思考・判断)</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。 <p>(興味・関心・意欲、態度)</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 人間及び人間の創り出した文化や現実の社会から提起される諸問題に興味関心を持ち、それを大学における勉学を通じて追求し、勉学の成果をグローバル化した現代社会に活かしたいと考えている。 <p>(技能・表現)</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 所与の問題について、自分の考えを日本語でわかりやすく表現できる。

学部等名 教育学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ 愛媛大学規則集 http://kiteisv.office.ehime-u.ac.jp/iddesk/ ）
○教育学部規則（第2条） 学部は、学校教育法、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章を踏まえ、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知識、道徳的及び応用的能力を展開させ、教育文化の創造と発展に貢献することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/2.edu_-1.pdf ）
○教育学部のディプロマ・ポリシー ＜学部の教育理念と教育目的＞ 学校教育は、社会の発展を牽引する人材を育成するための中心的な機能です。教育学部は、その学校教育を支える優れた教員を輩出することにより社会に貢献することを使命としています。 教育学部は、初等教育コース（幼稚園・小学校教員）と中等教育コース（中学校・高等学校教員）からなる学校教育教員養成課程と特別支援教育教員養成課程とからなり、実践的なカリキュラムと、相互に尊重し啓発しあう学びを保障することで、確かな教育実践力と豊かな人間性を兼ね備えた学校教員を養成します。 ＜学習の到達目標＞ （知識・理解） 1. 教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。 （技能） 2. 教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。 （思考・判断・表現） 3. 教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。 （興味・関心・意欲、態度） 4. 教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/2.edu_-1.pdf ）
○教育学部のカリキュラム・ポリシー 教育学部は、豊かな人間性と優れた実践的指導力を兼ね備えた教員を輩出することにより社会に貢献するため、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成しています。 関係分野の専門的学識・技能を修得するための科目と、初年次から体系的な実践・省察を重視した実習カリキュラムを用意しています。これらにより、学生は理論を学び、実践の場でその活用を試み、他者との交流を通じた省察によって真摯に自らを振り返り、さらに関心・意欲を高め、学びを深めていきます。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/2.edu_-1.pdf ）
○教育学部のアドミッション・ポリシー ＜求める入学者像＞ 1. 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。 （知識・理解） ①高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 （知識・理解、技能） ②教員養成カリキュラムを履修するのに必要な、教科にかかわる知識や、スポーツ、音楽、造形などの実技能力を有している。 （思考・判断・表現） 2. 物事を多面的かつ論理的に考察することができ、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。 （興味・関心・意欲） 3. 子どもの育ちや教育にかかわる諸問題に深い関心を持ち、教師として社会に貢献する意欲を明確に有している。 （態度） 4. 積極的に他者とかかわり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。

学部等名 社会共創学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ 愛媛大学規則集 http://kiteisv.office.ehime-u.ac.jp/iddesk/ ）
○社会共創学部規則（第2条） 学部は、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章の趣旨を踏まえ、多様な地域ステークホルダーと協働しながら、課題解決策を企画・立案することができ、様々な地域社会を価値創造へと導く力（＝「社会共創力」）を備えた人材を育成するとともに、地域と大学とが一体となった教育研究により、地域社会の持続可能な発展に貢献することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/3.cri_.pdf ）
○社会共創学部のディプロマ・ポリシー （知識・実技） 1. 文系や理系の広範な学問領域における教養や専門的知識及び高度な実技力を身に付けている。 （思考・判断） 2. 地域社会の多様なフィールドにおける諸課題の解決に向けて、的確な学際的考察及び総合的判断ができる。 （興味・関心・意欲・協働） 3. 地域社会の諸課題に対して自ら積極的に関心をもち続けることができる。 4. 地域社会を新たな価値創造へと導こうとする意欲を有し、地域社会の諸課題の解決に取り組むことができる。 （技能・表現） 5. 地域社会の諸課題の解決に必要な情報を収集・整理・分析できる。 6. 自己の思考・判断のプロセス及び結果を他者にわかりやすくプレゼンテーションできる。 （リーダーシップ） 7. 地域社会の課題の解決に向けて、サーバントリーダーシップを発揮することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/3.cri_.pdf ）
○社会共創学部のカリキュラム・ポリシー 社会共創学部では、社会共創力を身に付けさせるため、トランスディシプリナリー教育を取り入れます。このため、本学部の学生は地域社会を価値創造へと導く人材となるべく、課題解決思考力とサーバントリーダーシップを兼ね備えていることが求められます。 本学部は、定められたディプロマ・ポリシーを達成するため、以下のようにカリキュラムを定めます。 ・共通教育科目のカリキュラム（教育課程） 共通教育科目を通して、社会科学系・人文科学系及び自然科学系を含めた幅広い教養や語学を基に、社会人として必須の基礎力・汎用的基礎力を身に付けます。本科目は、DP（知識・実技）に強く関連します。 ・専門教育科目のカリキュラム（教育課程） 共通教育科目を基礎に積み上げられる専門教育の汎用的能力を身に付けるべく、専門教育科目を用意します。本学部は、専門教育科目を基礎力育成科目群、実践力育成科目群、課題解決思考力育成科目群、専門力育成科目群、学位認定科目群の5つに科目区分します。 1. 基礎力育成科目群では、科学と地域社会が連携して知の統合を構築する視点を養う科目（社会共創学概論）、地域産業の発展を根底から支える地域企業の在り方に関する入門科目（経営入門）さらには、サーバントリーダーが備える能力・資質を理解し、ステークホルダーと協働する素養を身に付ける科目（サーバントリーダーシップ入門）を配置します。また、地域社会の現状と課題を把握するために必要となる基礎的な調査手法などを身に付ける科目（地域調査方法入門）を配置します。基礎力とは、理論基礎力と実践基礎力の双方です。 本科目群は、DP（知識・実技）／（技能・表現）／（リーダーシップ）に強く関連します。 2. 実践力育成科目群では、専門知識の活用力・理論に裏打ちされた実践力を身に付けるために、アクティブ・ラーニングの手法を原則としたフィールドワーク科目を配置します。また、自己確立とキャリア探究の基礎を構築するために、インターンシップ科目を配置します。その上で、各学科の学生が地域社会における諸課題を解決する能力を身に付けるべく、実践力育成発展科目を配置します。 フィールドワーク科目では、学年進行に応じて、実践基礎として学部共通（入門版）

のフィールドワーク科目を配置するとともに、体感学習の場・知見実証の場である地域社会に出ることで、分析手法とデータの活用方法を学ぶべく、プロジェクト演習科目を配置します。

本科目群は、DP（思考・判断）／（関心・意欲・態度）／（技能・表現）／（リーダーシップ）に強く関連します。

3. 課題解決思考力育成科目群では、多様な課題を発見・解決するための素養を引き出すため、各学科の固有の専門領域横断的な科目を必修科目として配置するとともに、専攻以外の専門分野の基礎知識を総合的かつ体系的に学ぶ学際的パッケージ科目を配置します。

本科目群は、DP（知識・実技）／（技能・表現）に強く関連します。

4. 専門力育成科目群では、基礎力育成科目群で修得した社会共創基礎力を基礎にした上で、より高度な専門知識や理論を修得することで、実践力育成科目群において、地域社会の具体的な問題解決を行い、各学問領域における専門知識を現場で応用できるよう、各学科で必要とされる高度で深みのある専門科目を必修化し、それに関連する科目を学問系列ごとに分けて履修コース科目として配置します。さらに、実践力育成科目群で生まれた新たな関心・意欲に応え、幅広い学問領域における専門知識を体系的に修得するため、他学科・他学部科目の履修を推奨します。

本科目群は、DP（知識・実技）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）に強く関連します。

5. 学位認定科目群では、学科 DP における能力やスキルの集大成である社会共創力を修得しているかどうかの評価・判断されます。この科目群には、それまで修得できた知識やスキルを統合し、複眼的な視点から問題の解決と新たな価値創造につなげていくために、卒業研究・自由課題研究を設け、少人数教育として懇切丁寧な個別指導を行います。また、卒業認定に向けたこれまでの正課教育・準正課教育・正課外活動での学習の振り返りを行った上で、学位認定に必要な知識や情報を収集し、自ら課題解決の策定及び成果発表をサポートする社会共創演習科目も併せて配置します。

本科目群は、DP（知識・実技）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）／（技能・表現）／（リーダーシップ）に強く関連します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ

https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/3.cri_.pdf）

○社会共創学部のアドミッション・ポリシー

<求める入学者像>

（知識・実技）

1. 高等学校で履修する範囲の基礎学力又は専門的な知識ないし実技力を有している。

（思考・判断）

2. 目標を達成するために、多面的視点から論理的に考察し、自己の考えをまとめることができる。

（興味・関心・意欲・協働）

3. 地域社会の持続可能な発展に関心を持ち、積極的に関わろうとする意欲を有している。

4. 様々な人々とグループワークしながら、主体的に問題の発見とその解決に取り組む姿勢を有している。

（技能・表現）

5. 他者の意見を理解し、自己の考えを口頭又は文書で表現できる。

学部等名 理学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ 愛媛大学規則集 http://kiteisv.office.ehime-u.ac.jp/iddesk/ ）
○理学部規則（第2条） 学部は、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章の趣旨を踏まえ、教養教育と専門教育の両面から、人間性、社会性及び国際性に裏打ちされた専門的科学知識を学生に修得させ、社会活動において科学的思考能力に基づき課題を発見し、解決できる人材を育成するとともに、深く理学分野の学芸を教授研究することにより、社会の文化の創造と発展に貢献することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/ef6a650c67f2c6c50e2b7cba4af1daf5.pdf ）
○理学部のディプロマ・ポリシー <学部の教育理念と教育目的> 科学は、数理、物質、自然、生命を支配する原理や法則を探究する学問で、現代文明の基礎であると同時に人類共有の知的財産です。科学を発展させ、新しい知・技術・文化を生み出す原動力は、「未知なるもの」に対する好奇心とそれを探究するチャレンジ精神です。「過去を知り・現在の発展を支え・未来を拓く」－この科学の原点に立って、将来の社会・科学・文化を担う市民・職業人となる理系人材を育て、社会に貢献することが理学部の教育の目的です。 理学部は、社会の様々な分野で活躍するための基礎知識・技能、探究力・応用力、人間性・コミュニケーション力を養う教育を行います。 <育成する人材像> 理学部は、教育カリキュラムを通して「理学の体系的学識に由来する知性」・「科学に根差した汎用能力」・「高い教養に基づく豊かな人間性」を涵養し、社会が理学部卒業生に市民・職業人として期待する「倫理観・責任感に裏付けられた地に足をつけた人間性と、急速な社会環境の変化や多様な課題に柔軟に対応できる知性を備え、様々な人々と協働しながら主体的に行動し貢献する意志を持つ、自然科学の素養を持った理系人材」を継続的に輩出することを目指します。 <学習の到達目標> 1. （広い教養・基礎学力と汎用的能力） 理学全般にわたる基盤的な学力と、人文科学・社会科学などの一般教養、日本語・英語の読解力・表現力、情報リテラシー・コミュニケーション能力などの汎用能力を修得し、それらを活用することができる。 2. （科学の体系的基礎学識・技能・科学的思考力） 科学の体系的基礎学識と基盤技能を修得し、それらを活用して、調査・研究を通じた課題の発見・提示や解決を科学的思考のもとで行い、その過程や結果を他者に説明することができる。国内外の文献を調査し必要な情報を収集し理解できる。 3. （協働する姿勢・能力） 修得した科学的センスと高い教養に基づく価値観・倫理観・責任感のもと、様々な人々と能動的に関わり協働することができる。自己啓発・自己研鑽を継続する努力ができる。 <卒業認定・学位授与> 理学部の定める教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき所定の単位を修得し、卒業要件を満たした学生に対して、卒業を認定し学位（学士）を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/ef6a650c67f2c6c50e2b7cba4af1daf5.pdf ）
○理学部のカリキュラム・ポリシー <教育課程の編成と教育の内容> 理学部では、高等学校教育との接続性、基礎から発展・応用へと接続する専門分野ごとの体系的性、学生個々の多彩な知的好奇心・キャリアプラン・学修目的に対応できる柔軟性、を確保するカリキュラムを編成します。カリキュラムは全学共通教育科目と理学部専門教育科目で構成され、年次進行に沿って基礎から発展・応用へ段階を踏んで学べるように配慮されています。専門教育科目は、理学の基幹分野・学際分野を専門とする理学部及び先端研究・学術推進機構の教育研究者により実施されます。また、学内外の第一線級の研究者による特別講義、汎用的能力を涵養するキャリア教育プログラムが適宜開講されます。 理学部理学科には、数学・数理情報、物理学、化学、生物学、地学の5教育コースが設置されています。1年次は全学共通教育科目・理学部共通基礎科目を中心にバランスよく履修し、大学生としての教養・学びの基礎・キャリアビジョンを育むとともに、外国語・数学・理科の

基礎を学び、理系人材として自立的に成長していく上での基盤を身に着けます。理学部共通基礎科目は、理学の専門分野を学ぶ基礎となる理数の学力を確立すると同時に、科学を俯瞰し、学習意欲を高めます。2 年前期開始時に志向・目標に沿った教育コースを選択して専門領域に踏み出し、コースの履修モデルに沿って学修して体系的な知識とスキルを修得します。4 年次には指導教員を定め、特別演習・特別研究・課題研究の個別あるいは少人数型の実践的科目を通して個性や能力を磨き、広い視野と論理的な問題分析・解決能力を育みます。

2 年後学期開始時に選択する履修プログラムは、卒業後のキャリアパスを見据えた特徴ある履修プランの構築を可能にします。標準プログラムは、各コースが開講する専門教育科目を標準履修モデルに沿って体系的に学修し、コースの基幹分野における標準的専門知識と実験等の基礎技能を修得する基本の履修プログラムです。科学コミュニケーションプログラムは、理学の汎用的基礎知識・技能を背景に科学を伝える力を磨き、人と技術・文化の橋渡しをする役割を担うキャリアを目指す学生のための履修プログラムです。課題挑戦プログラムは、宇宙物理学・地球惑星科学・環境汚染動態学・海洋学分野の学際的先端科学に関わる研究能力を養成するための特別科目を履修するカリキュラムで構成されます。どのプログラムを選択しても、卒業に必要な要件は同じです。

<教育方法と成績評価>

- ・講義、演習、実験、体験学習、ディスカッション・グループワーク、E-ラーニングなど、科目の教育目標に応じて最適な形式の授業を実施します。
- ・一部の科目で、反転授業・プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション形式のアクティブラーニングを取り入れ、主体的な学びを促進し、表現力・コミュニケーション能力を涵養します。
- ・授業時間外学習に充てる時間を十分に確保できるように履修登録制限（CAP 制）を設けるとともに、E-ラーニングなど時間外学習を支援するツールを用意します。
- ・カリキュラムマップで科目の関連性を示すとともに、専門志向・キャリアパスに応じた履修モデルを提示するほか、学年ごとのガイダンスを実施し、学生個々の履修計画をサポートします。
- ・全科目で、筆記試験・レポート・口頭試問などの客観的方法による厳正な成績判定を実施します。
- ・成績優秀者を対象とする 3.5 年の早期卒業・早期大学院進学制度を設けます。
- ・4 年間のカリキュラム中に必修科目のない semester またはクォーターを設定するほか、カリキュラムを 3.5 年に短縮する制度を設け、在学中の留学等を支援します。
- ・協力大学との単位互換、他学部・他大学・海外の大学の科目の単位認定、他学部などへの進路変更などについても柔軟な対応をします。

<カリキュラムの評価>

授業アンケート、入学者アンケート、卒業生アンケートなどの学生調査と各種統計データの分析を実施し、個々の授業科目の教育効果や、コースの学修到達目標の達成状況について検証します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ

<https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/ef6a650c67f2c6c50e2b7cba4af1daf5.pdf>)

○理学部のアドミッション・ポリシー

<求める入学者像>

科学は、数理、物質、自然、生命を支配する原理や法則を探究する学問であり、身の回りの「何故」に対する合理的な答えを知りたいという知的好奇心が積み重なって発展してきました。

理学部は、数学・数理情報、物理学、化学、生物学、地学の理学 5 基幹分野を基盤に、宇宙・地球・環境に関連する学際的分野に携わる先端研究・学術推進機構の研究センター群と協働して教育・研究を実施しています。理学部は、数理・物質・自然・生命にかかわる事柄に広く興味を持ち、科学を体系的に学習して理系人材として社会で活躍しようと志す入学者を受け入れ、各教育コースの特徴ある専門教育を通して汎用能力を有す理系人材として育成し、社会に送り出します。

この目的のために、理学部では次のような資質を有する学生を求めます。

1. 高校課程修了レベルの知識・教養を広く修得しており、自立的に学習を進める準備がある。
2. 高校課程の数学または理科の十分な基礎学力を有し、数理・物質・自然・生命の探究に興味を持ち、科学をさらに深く学び理解しようとする意志がある。
3. 物事を論理的に考察し、自分の考えを論理的にまとめて表現することができる。
4. 継続的な学習により成長し、倫理観・責任感をもって主体的に社会とかかわり貢献しようとする志している。

学部等名 医学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ 愛媛大学規則集 http://kiteisv.office.ehime-u.ac.jp/iddesk/ ）
○医学部規則（第2条） 学部においては、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章の趣旨を踏まえ、医学・看護学における専門的知識や優れた技術を授け、深く医学・看護学分野の学芸を教授研究するとともに、豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を備えた医療人を育成することにより、最良の医療、保健、福祉を通して社会に貢献することを目的とする。 医学科においては、学部の基本理念に基づき、我が国における医学水準の向上を図り、その成果を国民の保健衛生及び医療に正しく反映させるとともに、地域社会に貢献することを目的とする。 看護学科においては、学部の基本理念に基づき、看護・保健に関する高度の専門的知識と優れた技能を有する専門職者として指導的役割を担う人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/5.medicine.pdf ）
○医学部のディプロマ・ポリシー ＜学部の教育理念と教育目的＞ 『患者から学び、患者に還元する教育・研究・医療』という医学部開設の基本理念に基づき、教育目的を次のように定めています。医学部においては、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章の趣旨を踏まえ、医学・看護学における専門的知識や優れた技術を授け、深く医学・看護学分野の学芸を教授研究するとともに、豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を備えた医療人を育成することにより、最良の医療、保健、福祉を通して社会に貢献することを目的としています。 ＜学習の到達目標＞ (知識・理解) 1-1. 医療人としての専門分野の学問内容について知識を修得している。 1-2. 人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけている。 (思考・判断) 2-1. 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価し、情報の総合と適確な判断を行い、必要な行動を示すことができる。 (興味・関心・意欲) 3-1. 科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応して、生涯を通して自らを高めることができる。 (態度) 4-1. 患者および住民の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するために、医療人として責任をもった行動をとることができる。 (技能・表現) 5-1. 基本的な医療行為を患者にも自らにも安全に実施することができる。 5-2. 患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員としての役割を果たすことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ 医学科 https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/f75f32ad9c8df767f3c83a8610d1b299.pdf 看護学科 https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/5-2.nurs_.pdf ）
○医学科のカリキュラム・ポリシー ＜教育課程の編成と教育内容＞ 入学当初から1年間のカリキュラムに、特に重点を置いています。グループ学習が中心となる「新入生セミナー」では、大学で学ぶとはどういうことか、自学自習するとはどういうことかを、医学・医療に関わる題材を用いて、グループメンバーや教員とともに考えます。医学の基本となる解剖学や生理学等の医科学の基礎を少しでも早く身に付けるために、1年次の4月から「基礎医学展望」を受講します。この科目は高等学校での学習から医学専門教育への橋渡しを行うものです。1年次（通年）には、城北キャンパスで他学部の学生とともに学ぶクラスもあります。また本学の特徴として、学生の研究マインドを育てるために、1年次5月から研究室配属を行い、先端医科学の研究を体験・実践します。 1年次後学期から基礎医学系科目を広く学び、3年生では臨床医学の基礎を、4年次では応用的な臨床医学各科目を学びます。全国医科共用試験（CBTとOSCE）を経て、4年次の12月から大学附属病院の全ての臨床科での導入型臨床実習が始まります。また県内各所の病院に設置された愛媛大学サテライトセンターでも臨床実習を行い、地域医療の最先端の現場を経験します。5年次の冬から6年次の夏までは、それぞれの学生が選択した附属病院の臨床科や県内各地の医療機関で、さらに高度な選択型臨床実習を行います。 医学科の必修科目を履修し医学部規則に定められた単位を取得することで、大学憲章に掲げた5つの能力を修得することができるようにカリキュラムが編成されています。 ＜教育方法＞ 医学科では、国際水準（グローバル・スタンダード）に対応したカリキュラムを構築するために、平成28年度の新入生から新しいカリキュラムに移行しました。新カリキュラムでは、

臨床実習を4年次の冬から行い、実習内容を量的にも質的にも向上させます。平成27年度から、専門教育の授業時間を1コマ90分から60分に短縮して学生の集中力を高めると同時に、日々刻々進歩している医学知識の増大に対応しています。カリキュラムには6年間を通して様々な実習授業が組み込まれ、グループ単位での能動的な学習が求められています。さらに、チーム医療教育のため、1年次からグループ学習や看護学科等との合同授業を開講しています。

<成績評価と進級・卒業判定>

すべての授業において、客観的な評価基準に基づいて、筆記試験・口頭試問・レポートなどにより厳格な成績判定を実施します。学年毎の進級には一定の条件があります。これに加えて、全ての学生は4年次には全国统一の学力・臨床技能試験である全国医科共用試験(CBTとOSCE)を受け、合格後は4年次12月から始まる臨床実習に参加します。6年次には、客観試験による全臨床科統合型卒業試験とpccOSCE(臨床実習後の臨床実技試験)により、知識・態度・技能を総合的に評価して卒業判定を行います。

<カリキュラムの評価>

統合型卒業試験を含む全ての授業の成績、全国医科共用試験や国家試験の成績、進級率、学生による授業評価、研修先の病院等からの評価などのデータを蓄積し、医学教育のグローバル・スタンダードに基づいてカリキュラムの改善を継続的にを行います。

○看護学科のカリキュラム・ポリシー

<教育課程の編成と教育内容>

看護学科のカリキュラムは、1年生から3年生前学期まで、看護職者として必要な主要科目を講義や演習で学びます。入学後、早期(9月下旬)に1週間の附属病院での実習(基礎看護学実習Ⅰ)、2年生でも、2月下旬に2週間の実習(基礎看護学実習Ⅱ)で看護の基礎的な知識・技術を習得します。そして、3年生後学期から4年生の前学期の約6か月間は、本格的に現場で学ぶ各論実習を行います。4年生では死生学演習、看護研究、さらに4年間の集大成としての統合科目や統合実習を行います。

<教育方法>

1年次から看護学科の教育カリキュラムの他者への共感性を育むために、高齢者や子どもに関わるフィールドワークやビデオ学習を行います。また、自分の将来を早期に具体化し、勉強に取り組めるよう卒業生や先輩と交流会も実施しています。さらに早朝から臨床現場で患者にかかわる実習を経験し、段階的に臨床実習に備えて学内では、看護技術教育を強化し、各種シミュレーションを備えた実習室での演習を行います。3年次からは在宅や老人保健施設、保健所等の看護が実施されている様々な領域での小グループ実習を行います。そして、4年次には看護実践能力を高める複数受け持ち制・リーダーシップ・危機管理と対応した統合実習を行います。また、地域住民のニーズを踏まえた健康セミナーの企画・実施・評価や看護研究に取り組み、論理的思考や科学的な問題解決能力の育成さらには自己の看護観の確立を目指します。

<成績評価と進級・卒業判定>

すべての授業において、客観的な評価基準に基づいて、筆記試験・口頭試問・レポートなどにより厳格な成績判定を実施します。学年毎の進級には一定の条件があります。これに加えて、全ての学生は4年次には看護師、保健師(保健師課程を選択したもの)、の国家試験受験資格が与えられ、養護教育の課程を修了した者には教育職員の資格が与えられます。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:大学ホームページ)

<https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/5.medicine.pdf>

○医学部のアドミッション・ポリシー

<求める入学者像>

医学部の基本理念は「患者から学び、患者に還元する教育、研究、医療」です。これは、「医療人は生涯にわたって病める人の身になって病苦と取り組み、人々の健康と福祉に貢献する」という精神を含んでいます。この理念に基づき、医学部は医学・看護学の知識や技術を教育するだけでなく、人間の尊厳を重んじる豊かな人間性と幅広い教養を育み、深い洞察力と生命倫理や生命の尊厳に対する深い認識を備えた医療人の育成をめざしています。また、進歩する医学・医療を生涯にわたり学習し続ける態度を身につけるため、少人数による課題探求型の教育にも力を入れています。地域医療を含む日本の保健・医療・福祉に広く貢献できる人材の育成を目指し、一般入試に加えて、学校推薦や自己推薦などの様々な入試方法も採用しています。

そこで、医学部は次のような資質を有する学生を求めます。

(知識・理解、思考・判断)

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している。

(興味・関心・意欲、態度)

2. 人間が好きで、生命に対する倫理観がしっかりしている。

3. 医学・医療に対する意欲や関心が高く、この分野に貢献したいという目的意識と情熱を持っている。

4. 入学後も、生涯にわたって自己啓発・自己学習・自己の健康増進を継続する意欲がある。

(技能・表現)

5. 幅広い人間性、柔軟性と協調性を有し、周囲の人と良好な関係を保つことができる。

6. 自分の考えや行動に責任を持ち、それを相手に明確に示すことができる。

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ 愛媛大学規則集 http://kiteisv.office.ehime-u.ac.jp/iddesk/ ）
○工学部規則（第2条） 本学部は、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章の趣旨を踏まえ、幅広い教養及び工学に関連する基礎的知識に基づく十分な学問的知識を修得させ、豊かな人間性と自立した創造力に富む専門的職業人及び技術者となる人材を養成するとともに、深く工学分野の学芸を教授研究することにより、社会の文化の創造と発展に貢献することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/1af54a672d980c9d96ec0f8439f68218.pdf ）
○工学部工学科のディプロマ・ポリシー <学部の教育理念と教育目的> 愛媛大学学則及び愛媛大学憲章の趣旨を踏まえ、工学部では幅広い教養及び工学に関連する基礎知識に基づいた学問的知識を修得させることにより、豊かな人間性と自立した創造力に富む専門的職業人及び技術者となる人材を養成することを目的としています。また、深く工学分野の学芸を教授研究することにより、社会の文化の創造と発展に貢献することを目的としています。 <育成する人材像> 社会や自然との係わりの中に自らを位置づけ、グローバルな視野からの多面的な判断によって工学・科学技術を主体的、自律的に行使することができる人材を育成します。また、科学とこれを基礎とする工学分野の基礎的知識を総合的に活用して、「ものづくり」や「システムづくり」に創造的かつ実践的能力を発揮し、かつ変化する産業構造に柔軟に対応し、社会に貢献することができる人材を育成します。 <学習の到達目標> (知識・理解) 1. 幅広い教養と工学の基本的な知識を身につけている。 2. 工学の一専門分野について基礎的知識をもち、ものづくりやシステムづくりに活用できる。(思考・判断) 3. 科学や技術が社会におよぼす影響を理解し、国内外の視点から自立のかつ論理的な判断を行うことができる。 (興味・関心・意欲) 4. 課題を解決するために必要となる工学的知識を自ら修得するために学習を継続する能力をもつ。(態度) 5. 自己の専門分野だけでなく教養および多様な工学的知識を総合的に活用しながら、現代社会が直面するさまざまな課題に柔軟に対応できる。 6. 課題を他者と協働して解決できる。 (技能・表現) 7. 自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーション能力、およびコミュニケーション能力をもつ。 <卒業認定・学位授与> 工学部の定める教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき所定の単位を修得し、卒業要件を満たした学生に対して卒業を認定し学位（学士）を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/1af54a672d980c9d96ec0f8439f68218.pdf ）
○工学部工学科のカリキュラム・ポリシー <教育課程の編成と教育内容> 工学部工学科では、まず基礎をしっかりと学習したのち、専門知識を身につけるための深い学びと実践力の養成へと繋がるよう、カリキュラムが組まれています。カリキュラムは、全学共通教育科目、工学共通基礎科目、専門入門科目、専門基礎科目、専門応用科目から構成されています。年次進行とともに基礎から発展・応用へと段階を踏んで学べるように授業科目が配置されています。 全学共通教育科目では、1年次の初年次科目および基礎科目で、「数学」、「英語」など、大学での学びを進めるための基礎的な知識・技能を学習します。また、専門分野の基礎を学んだあと、2年次と3年次前期で教養科目を履修することで、社会との関連を意識して、自己の学びを深めることができます。 工学共通基礎科目は工学科の学生全員が同じ内容の授業を受講します。1年次の工学共通基礎

科目では、「物理基礎」や「化学基礎」、「基礎情報学」、「基礎安全学」などの科目で、工学系技術者・研究者を目指す学生が身につけなければならない知識・技能の基礎を学習します。また、「工学リテラシー」で、各教育コースの特徴や主な研究テーマ、さらに自然・生命・環境・エネルギー・社会・情報と科学技術の関わりについて学習します。1年次後期には、教育コースの入門的な科目でもある専門入門科目が開講されます。工学に関する様々な学問分野の科目群から学生が自由に複数の科目を選択することで、多方面の学問分野についてその学習内容の一端を知る機会が増えます。また、卒業後のキャリアパスを意識しつつ自己の学びを深め、実践的能力が培えるよう、「学部共通PBL」、「工学倫理・知財・キャリアリテラシー」を3年次に履修します。

専門基礎科目と専門応用科目は2年次以上で履修します。2年次からは、機械工学コース、知能システム学コース、電気電子工学コース、コンピュータ科学コース、応用情報工学コース、材料デザイン工学コース、化学・生命科学コース、社会基盤工学コース、社会デザインコースの9教育コースに分かれ、教育コースそれぞれに特徴ある授業科目を受講することにより、より専門性を深めた知識・技能の修得を目指します。各教育コースにおいて、4年次に学生は研究室に配属され卒業研究を行います。卒業研究に取り組むことにより、学んだ知識や技術を実践・応用する力、社会で未解決の問題を解決する能力を養います。各教育コースにおいて、4年次に学生は研究室に配属され卒業研究として、各教育コースに関連した先端研究を体験・実習します。卒業研究に取り組むことにより、学んだ知識・技術を実践・応用する力、社会で未解決の問題を解決する能力を養います。

以下に、各教育コースで開講される専門基礎・応用科目の特徴的な教育内容をまとめます。

・機械工学コース

機械工学に関する基礎的知識と機械に関連するものづくりや問題解決、コミュニケーションに必要な学問的知識・実践的スキルを修得させ、豊かな人間性と自立した創造性に富む機械技術者を育成するための教育を行います。2年では、機械工学の中核をなす4大力学である材料力学、熱力学、流体力学、機械力学を理解するための専門基礎科目を学びます。製図に関する複数の実習を行い、コンピュータを駆使した機械設計に関する実用的能力を伸ばします。3年次の応用系科目では、4大力学の応用科目、4大力学以外の機械工学を構成する種々の科目を受講します。講義で学んだ専門知識を、実験・実習を通じてより深く理解するために、機械工学実験を受講します。

・知能システム学コース

知能システム学に関する基礎的知識と知能システムに関連するものづくりや問題解決、コミュニケーションに必要な学問的知識・実践的スキルを修得させ、豊かな人間性と自立した想像性に富む知能システム技術者を育成するための教育を行います。機械工学の中核をなす4大力学である材料力学、熱力学、流体力学、機械力学の基礎を学び、専門的な数学、力学である応用数学、応用力学の力をつけ、設計・製作に関する授業やコンピュータを駆使した機械設計に関する実用的能力を伸ばします。3年次では知能システム学に関する専門の応用系科目として、制御基礎理論、ロボット・生体工学、情報処理と機械系をつなぐシステム理論、メカトロ・人工知能工学などの最先端の授業を受講します。また、これらの講義で学んだ知識を、実験・実習を通じて理解するための実験科目が用意されています。

・電気電子工学コース

電気エネルギーに関わる技術から、信号処理や通信システムなどの情報技術、半導体などの材料技術にいたるまで、電気電子工学について豊かな教養を持ち実践的能力を身につけた技術者を育成するための教育を行います。2年次には、電気電子工学の基盤となる電気磁気学、電気回路、電子回路などの講義科目および実験科目を履修し、電気電子工学分野の基本的な機器の取扱を含む実験技術・安全衛生・科学倫理と実践的なスキルを涵養します。また、3年次には電気系や通信系、材料系などの科目も履修し、専門性をより高めます。4年では、知的財産や工場管理などの科目を学ぶことで、卒業後の実務に向けた知識を深めます。

・コンピュータ科学コース

知能情報社会を構築するために必要な数理科学、コンピュータ科学および人工知能を含むデータサイエンスの知識・技術を修得し、課題解決のためにデータを分析し、その解決方法をコンピュータシステムとして実現できる高度情報処理技術者を育成するための教育を行います。コンピュータ科学の技術を習得するために、ハードウェアに関する基礎理論、ミドルウェアに関する基礎理論、ソフトウェアに関する基礎理論、プログラミング言語を学びます。人工知能を含むデータサイエンスの技術を習得するために、数学、数理科学、機械学習を学びます。

・応用情報工学コース

社会に存在する課題に挑み、その解決に向かって考え、自己の成長を持続的に行える実践的能力を備えた技術者の育成するための教育を行います。情報工学・通信工学の分野学習で基盤

となる論理回路、プログラミング言語、オペレーションシステムなどを学びます。さらに、マーケティングやデザイン思考、サイバーセキュリティなどの講義やその他演習科目を履修することで、情報工学・通信工学に関する知識・知見をもとに、社会の直面する課題の解決に取り組む、実践的能力の涵養を図ります。

・材料デザイン工学コース

材料に関して、金属工学、無機材料工学、機械工学、電気・電子工学、物理学、化学などの物質に関連する学問分野を幅広く学び、新しい機能を持った材料を開発できる人材を育成するための教育を行います。2年次に材料物理化学・金属材料組織学・金属強度学などの材料学の基礎科目、力学・電磁気学・量子論などの物理科目や数学科目を学びます。そして、実験科目を通じて実際の自然現象と座学の知識を有機的に関連づけていきます。また、科学技術英語の受講から英語で科学技術を表現できる能力も身に付けます。3年次では誘電体材料学、光材料学、磁性材料学などの各種材料の専門的知識を学び、無機材料学や金属材料学を受講して材料学を総合的に学習します。そして、材料デザイン工学実験を受講して材料開発に必要な実験手法も学び、新しい材料を開発する知識・技術を習得します。

・化学・生命科学コース

化学や生命科学の知識を総合的に活用して、社会が抱える問題の解決策を提示できる人材を育成するための教育を行います。化学・生命科学分野における基礎から応用にわたる広い範囲の講義や実験から成る体系的なカリキュラムを用意しています。化学・生命科学コースに共通した基幹的な考え方や実験技術を身に付けるための応用科学実験 I-III と化学・生命科学演習の必修科目の他に、選択科目として基本的専門知識を身に付けるための科目群と身に付けた基本的な知識をさらに発展させるための科目群があり、学生個々の興味や将来設計に合わせて自主的・意欲的に授業を選択することができるようになっています。また、科学技術英語の受講から専門分野の情報・知識を英語で収集・理解する能力を高め、英語で研究・技術を表現できる能力の涵養を図ります。

・社会基盤工学コース

土木工学に係わる専門科目の習得により社会基盤整備、持続的な環境創造を担える人材の育成するための教育を行います。2年次では、専門基礎科目として、構造力学、土質力学、水理学といった、三力と呼ばれる土木工学の根幹を成す分野の講義や、土木計画学、建設材料学、測量学、地球生態学といった土木工学のあるべき姿を理解する上で必須となる講義を受講します。3年次では、専門の応用系科目が設置されています。また、多くの実験・実習科目があり、これらの受講を通じて、講義で学んだ内容のより深い理解と定着を図ります。

・社会デザインコース

自然科学、社会科学を限定せず幅広い知識と能力を習得することにより持続可能な環境創造、豊かなまちづくり、国土デザインを担える人材を育成するための教育を行います。2年次では、専門基礎科目として、構造力学、土質力学、水理学といった、三力と呼ばれる土木工学の根幹を成す分野の基礎的な講義や、土木計画学、建設材料学、地球生態学、社会資本の整備と運用、景観デザイン、公共ガバナンス論、社会心理学といった持続可能な環境創造、豊かなまちづくり・地域デザインを担うための基盤となる講義を受講します。3年次では、専門の応用系科目が設置されています。また、住民参加と合意形成といった、プロジェクトを遂行するために必須となる考えを学ぶ講義を受講します。

<教育方法と成績評価>

- ・講義、実験・実習、体験学習、ディスカッション・グループワーク、プレゼンテーションなど、ディプロマ・ポリシーに示す教育目的と学習の到達目標に応じて最適な形式の授業を実施します。
- ・科目間の関係と履修の流れをカリキュラムマップとしてわかりやすく示し、専門志向・キャリアパスに応じた履修計画をサポートします。
- ・授業時間外学習に充てる時間を十分に確保できるように履修登録制限を設けています。
- ・すべての授業において、客観的な評価基準に基づいて、筆記試験、口頭試問、レポートなどにより厳格な成績判定を実施します。
- ・卒業研究を履修するには、3年次後学期終了までに習得しなければならない単位数と授業科目が定められています。

<教育評価>

各学期の終了時に授業アンケートを行い、個々の授業科目の改善に役立てます。また、卒業予定学生アンケートを実施し、工学科・教育コースの教育が学生の成長にどう役立ったかを調べ、教育の改善につなげます。さらに、卒業生や卒業生が就職した企業関係者の方々の意見を聴取して、卒業認定・学位授与の方針で示された能力が確実に身につけているかを検証します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ

<https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/1af54a672d980c9d96ec0f8439f68218.pdf>)

○工学部工学科のアドミッション・ポリシー

<求める入学想像>

工学部では、工学・技術の分野で技術者・研究者等として国内外で活躍できる人材の育成を目指します。そのため、工学科では次のような人物を求めます。

（知識・理解）

1. 本学科の専門分野を学ぶために必要な、高等学校卒業レベルの基礎学力を有している。

（思考・判断、技能・表現）

2. 物事を多面的に考察し、論理的にまとめ表現することができる。

3. 自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができる。

（興味・関心・意欲、態度）

4. 工学の分野に興味を持ち、習得した知識・技術を地域社会あるいは国際社会に役立てたいと考えている。

（主体性・多様性・協働性）

5. 主体的に多様な経験を得ようとする意欲を有している。

6. 多様な他者と関わり、相互理解に努めようとする協働性やコミュニケーション能力を有している。

学部等名 農学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ 愛媛大学規則集 http://kiteisv.office.ehime-u.ac.jp/iddesk/ ）
○農学部規則（第2条） 学部は、愛媛大学学則及び愛媛大学憲章を踏まえ、農学領域における様々な研究及びそれらの成果を基に、食料、生命、環境に関する専門的知識・技術を学生に修得させ、自然と人間が調和する循環型社会の創造に貢献できる専門職業人や技術者を養成することによって、地域社会や国際社会における産業の発展と文化の進展に貢献することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/7.agriculture.pdf ）
<p><学部の教育理念と教育目的></p> <p>農学部は、生物生産技術の開発と安全・安心な食料の安定供給、生命機能の解明と生物資源の利用、生物環境の創造・修復・保全・管理・利用に関する専門知識・技術を修得させ、地域的な視点と国際的な視野から食料、生命、環境に関する様々な問題を解決し、自然と共生する持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成することを教育理念とします。</p> <p>また、農学領域における様々な研究及びそれらの成果を基に、食料、生命、環境に関する専門的知識・技術を学生に修得させ、自然と人間が調和する循環型社会の創造に貢献できる専門職業人や技術者を養成することによって、地域社会や国際社会における産業の発展と文化の進展に貢献することを目的とします。</p> <p><育成する人材像></p> <p>愛媛大学の基本理念に基づいて、「学生中心の大学」として学生の多様な志向性を尊重した農学教育を提供することにより、生物生産技術の開発と安全・安心な食料の安定供給、生命機能の解明と生物資源の利用、生物環境の創造・修復・保全・管理・利用に関する様々な問題を解決し、自然と共生する持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成します。</p> <p>（知識・理解）</p> <p>生物生産技術の開発と安全・安心な食料の安定供給、生命機能の解明と生物資源の利用、生物環境の創造・修復・保全・管理・利用に関するいずれかの専門知識と技術を修得している。</p> <p>（思考・判断）</p> <p>地域社会や国際社会における食料、生命、環境に関連する諸課題の原因を論理的に説明でき、解決策を見出すことができる。</p> <p>（興味・関心・意欲、態度）</p> <p>上記の諸課題を解決するため、主体性、協調性および高い倫理性をもって、自律的・継続的に行動することができる。</p> <p>（技能・表現）</p> <p>自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得している。</p> <p><卒業認定・学位授与></p> <p>愛媛大学に4年以上（学士2年次編入生では3年、3年次編入生では2年以上）在学し、農学部規則に定められた単位数を修得した学生に対して、卒業を認定し学士（農学）の学位を授与します。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/7.agriculture.pdf ）
○農学部のカリキュラム・ポリシー
<p><教育内容></p> <p>各学科で食料、生命、環境に関する専門知識と技術を習得するにあたって、農学に関する広範で俯瞰的な知識と技術も同時に必要不可欠であるという考え方から、学部共通科目として、必修7単位、選択9単位の授業科目を開講しています。また、2年次よりコースに分属しますが、学科共通の授業科目も開講しています。また、1年次には農学実習を必修とし、各学科の知識を深めるとともに技能技術の基礎を身に付けます。さらに、卒業論文の開始時期を3年次後期とし、デザイン能力を修得します。</p> <p><教育方法></p> <p>講義形式の授業だけでなく、実験・実習等のアクティブ・ラーニングを取り入れます。また、すべての授業において授業時間外の学習を含む十分な学習時間を確保します。</p> <p><教育評価></p> <p>すべての授業において客観的な評価基準（試験、レポート等）に基づいて厳格な成績評価を行います。</p>

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ

<https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/7.agriculture.pdf>)

○農学部のアドミッション・ポリシー

<求める入学者像>

農学部は、生物生産技術の開発と安全・安心な食料の安定供給、生命機能の解明と生物資源の利用、生物環境の創造・修復・保全・管理・利用に関する様々な問題を解決し、自然と共生する持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成することを教育理念としています。

この教育理念に基づき、地域社会や国際社会における食料、生命、環境に関する様々な問題の解決に熱意をもち、主体性と多様な能力をもった学生を求めます。そのため、一般入試に加えて、学校推薦や自己推薦などの様々な入試方法も採用しています。

そこで、農学部は次のような資質を有する学生を求めます。

(知識・理解)

1. 高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有している。
2. 次のいずれかに該当する。

- A. 高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの課題を解くことができる。
- B. 農業、工業、商業などに関する専門的な知識・技術を有しているか、高等学校で選択履修した教科・科目について実践的・体験的学習から得られた知識・知見・技術を有している。

(思考・判断)

ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

(興味・関心・意欲、態度)

地域社会や国際社会における食料、生命、環境に関する様々な問題に関心をもち、身に付けた知識をこれらの解決に役立てたいという意欲をもっている。

(技能・表現)

自分の考えを、日本語で他者にもわかりやすく表現できる。

<入学者選抜>

前期日程、後期日程、推薦入試Ⅰの他、特別コースでは A0 入試Ⅱを採用し、高等学校等において修得した基礎的な知識・技能、それらを活用する能力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度などを、多面的・総合的に評価する入学者選抜を行います。また、留学生に対しては渡日前入学許可制度による私費外国人留学生入試を採用し、多様な属性をもつ意欲ある学生に対して門戸を開きます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：愛媛大学概要（冊子及び大学ホームページ）

<https://www.ehime-u.ac.jp/ebook/outline2019/html5.html#page=11>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）								※（ ）は大学院所属
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計	
—	5人	—					5人	
法文学部	—	35人	35人	5人		1人	76人	
教育学部	—	42人	39人	3人			84人	
社会共創学部	—	17人	14人	3人	3人		37人	
理学部	—	(21人)	(23人)		(10人)		(54人)	
医学部	—	(43人)	(28人)	(12人)	(45人)	(1人)	(129人)	
工学部	—	(42人)	(37人)	(6人)	(29人)	(3人)	(117人)	
農学部	—	(31人)	(32人)		(9人)		(72人)	
大学院	—	137人	120人	18人	93人	4人	372人	
附属病院	—	1人	21人	37人	38人		97人	
その他	—	35人	48人	15人	25人		123人	
b. 教員数（兼務者）								
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計	
		429人					429人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：大学ホームページ 教育研究者要覧 http://yoran.office.ehime-u.ac.jp/search/index.html						
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）								
<p>本学では、教育・学生支援機構教育企画室が中心となって、全学的に一体感のある教育改革を進めています。教育企画室は、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点（拠点名：教職員能力開発拠点）に10年間（平成22年度～令和元年度、継続申請中）認定されています、また、本学は、四国35高等教育機関が加盟する「四国地区教職員能力開発ネットワーク」（SPOD）の代表校を務めています。</p>								

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
法文学部(昼)	275人	277人	100.7%	1,240人	1,240人	100%	10人	6人
法文学部(夜)	90人	90人	100%	440人	451人	102.5%	20人	10人
教育学部	160人	168人	105%	700人	710人	101.4%		
社会共創学部	180人	193人	107.2%	720人	760人	105.6%		
理学部	225人	238人	105.8%	900人	1,023人	113.7%	若干人	1人
医学部	170人	170人	100%	939人	962人	102.4%	15人	10人
工学部	500人	507人	101.4%	2,020人	2,200人	108.9%	20人	19人
農学部	170人	181人	106.5%	700人	765人	109.3%	10人	6人
合計	1,770人	1,824人	103.1%	7,659人	8,111人	105.9%	75人	52人
(備考) ・令和元年5月1日現在								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
法文学部(昼)	400人 (100%)	17人 (4.3%)	354人 (88.5%)	29人 (7.2%)
法文学部(夜)	131人 (100%)	2人 (1.5%)	101人 (77.1%)	28人 (21.4%)
教育学部	228人 (100%)	23人 (10.1%)	187人 (82%)	18人 (7.9%)
社会共創学部	—	—	—	—
理学部	221人 (100%)	85人 (38.5%)	116人 (52.5%)	20人 (9%)
医学部	168人 (100%)	3人 (1.8%)	161人 (95.8%)	4人 (2.4%)
工学部	550人 (100%)	236人 (42.9%)	307人 (55.8%)	7人 (1.3%)
農学部	192人 (100%)	48人 (25%)	131人 (68.2%)	13人 (6.8%)
合計	1,890人 (100%)	414人 (21.9%)	1,357人 (71.8%)	119人 (6.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) ※平成30年度実績				
○主な進学先 : 愛媛大学大学院、広島大学大学院、九州大学大学院、神戸大学大学院、 大阪大学大学院、京都大学大学院、東北大学大学院 愛媛県立医療技術大学 他				
○主な就職先 :				
<u>法文学部</u>				
(民間) タカラトミー、西日本電信電話、LINE、伊予鉄グループ、四国旅客鉄道、JALスカイ、モンベル、レディ薬局、伊予銀行、愛媛銀行、大和証券、日本政策金融公庫、野村證券、広島銀行、三井住友銀行、損害保険ジャパン日本興亜、第一生命保険、三井住友海上火災保険、明治安田生命保険、JT B、愛媛大学、国立病院機構、松山赤十字病院、全国健康保険協会、日本年金機構、日本郵便 他				
(公務員) 愛媛労働局、四国総合通信局、高松国税局、広島国税局、福岡地方裁判所、松山地方検察庁、今治市、愛媛県、愛媛県警察、岡山県、岡山市、香川県、西条市、徳島県、新居浜市、広島県警察、広島市、福山市、松山市 他				
(教員) 中学校教員、高等学校教員 他				
<u>教育学部</u>				
(民間) アサヒビール、福助工業、花王サニタリープロダクツ、三浦工業、愛媛朝日テレビ、サイボウズ、広島テレビ放送、全日本空輸、西日本旅客鉄道、富士ゼロックス、伊予銀行、愛媛信用金庫、広島銀行、山口フィナンシャルグループ、愛媛大学、愛媛県商工会連合会、他				
(公務員) 広島労働局、愛媛県、愛媛県警察、東温市、新居浜市 他				
(教員) 幼稚園教員、小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員 他				
<u>理学部</u>				
(民間) 三菱日立パワーシステムズインダストリー、福助工業、アサヒホールディングス、日新製鋼、潮冷熱、三浦工業、メガチップス、新来島どっく、三菱自動車エンジニアリング、エヌ・ティ・ティ・データ四国、日本電気、三菱電機コントロールソフトウェア、両備システムズ、フジ、伊予銀行、日本政策金融公庫、広島銀行、穴吹興産、セキスイハイム中国四国、ベネッセコーポレーション 他				
(公務員) 国土交通省四国地方整備局、水産庁、総務省統計局、高松地方裁判所、農林水産省横浜植物防疫所、今治市、宇和島市、愛媛県、広島市、松山市 他				
(教員) 中学校教員、高等学校教員 他				
<u>医学部</u>				
医学科卒業生は、本学医学部附属病院および県内外の研修指定病院の研修医となります。				

看護学科卒業生は、看護師として本学医学部附属病院および県内外の病院に、或いは保健師として県内外の市町村、保健所等に就職し、一部は大学院へ進学します。

工学部

(民間) 五洋建設、JFEプラントエンジニアリング、大成建設、東洋建設、戸田建設、三菱日立パワーシステムズ、四電工、コカコーラボトラーズ・ジャパン、日本食研ホールディングス、花王サニタリープロダクツ愛媛、JFEスチール、住友電装、コベルコ建機、ディスコ、ヒカリ、三浦工業、三菱電機エンジニアリング、大分キャノン、日亜化学工業、渦潮電機、NECプラットフォームズ、キーエンス、シャープ、富士通、三菱電機、IHI、今治造船、川崎重工業、新来島どつく、スズキ、ダイハツ工業、マツダ、三菱自動車、リョービ、四国電力、中国電力、SCSK、NECソリューションイノベータ、エヌ・ティ・ティ・データ四国、NTTフィールドテクノ、西日本電信電話、東海旅客鉄道、水資源機構 他

(公務員) 国土交通省、愛媛県(土木)、広島県(土木)、広島市(土木) 他

農学部

(民間) 池田糖化工業、エム・シーシー食品、オタフクソース、フジパン、マリンフード、丸紅エネックス、マルホ、井関農機、サタケ、三浦工業、ヤンマーアグリジャパン、日亜化学工業、ホクシン、四国ガス、NTTドコモ、NTTフィールドテクノ、アクアクララ、伊予銀行、アース環境サービス、サニックス、愛媛大学、全国農業協同組合連合会愛媛県本部 他

(公務員) 農林水産省、愛媛県(農業・林業)、愛媛県警察、岡山県(林業・土木)、香川県(農業)、徳島県(農業・林業)、広島県(土木)、広島市(園芸) 他

(備考) ・令和元年5月1日現在

・社会共創学部は平成28年度新設のため、卒業生等はありません。

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
法文学部(昼)	409人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
法文学部(夜)	116人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
教育学部	233人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
社会共創学部	—	—	—	—	—
理学部	235人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
医学部	167人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
工学部	532人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
農学部	186人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	1,878人 (100%)	1,624人 (86.5%)	194人 (10.3%)	53人 (2.8%)	7人 (0.4%)

(備考) ・令和元年5月1日現在

・医学部医学科以外の入学者数は平成27年度の1年次入学者数
(医学部医学科は平成25年度の1年次入学者数)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>次の情報を大学ホームページで公表しています。</p> <p>https://www.ehime-u.ac.jp/disclosure/publication01/index/</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針） ・シラバス検索 ・授業日程 ・授業時限

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>次の情報を大学ホームページで公表しています。</p> <p>https://www.ehime-u.ac.jp/disclosure/publication01/index/</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に関するガイド（履修および単位について） ・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） ・取得可能な学位 ・卒業・修了に必要な修得単位数 				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
法文学部	人文社会学科（昼）	127 単位	有	単位
	人文社会学科（夜）	125 単位	有	単位
教育学部	学校教育教員養成課程	130 単位	有	単位
	特別支援教育教員養成課程	130 単位	有	単位
社会共創学部	産業マネジメント学科	124 単位	有	単位
	産業イノベーション学科	124 単位	有	単位
	環境デザイン学科	124 単位	有	単位
	地域資源マネジメント学科	124 単位	有	単位
理学部	理学科	124 単位	有	単位
医学部	医学科	202 単位	有	単位
	看護学科	124 単位	有	単位
工学部	工学科	124 単位	有	単位
農学部	食料生産学科	129 単位	有	単位
	生命機能学科	129 単位	有	単位
	生物環境学科	129 単位	有	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		<p>公表方法： 大学ホームページ</p> <p>https://www.ehime-u.ac.jp/campus_life/class/credit/</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生自身による学生プロセス及び達成状況の自己管理に役立てる。 ・教員による学生の履修状況の把握及びきめ細やかな指導・助言を行う。 		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		<p>公表方法：</p> <p>結果を公表しているものではないが、学生個々の学修状況について、学修ポートフォリオを活用して可視化資料を作成するとともに、学生指導の一助としています。</p>		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：大学ホームページ 教育情報の公表 (7)キャンパス施設・整備、学生の自主的活動</p> <p>https://www.ehime-u.ac.jp/disclosure/publication01/index/</p> <p>愛媛大学概要（冊子及び大学ホームページ）</p> <p>https://www.ehime-u.ac.jp/ebook/outline2019/html5.html#page=1</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
法文学部	人文社会学科(昼)	535,800円	282,000円	71,600円	その他の経費とは、学生教育研究災害傷害保険料および校友会並びに後援会費等の合計金額。金額は、変更される場合があります。
教育学部	学校教育 教員養成課程			64,660円	
	特別支援教育 教員養成課程				
社会共創学部	産業マネジメント学科			44,660円	
	産業イノベーション学科				
	環境デザイン学科				
	地域資源マネジメント学科				
理学部	理学科			64,660円	
医学部	医学科			152,800円	
	看護学科			84,370円	
工学部	工学科	64,660円			
農学部	食料生産学科	70,660円			
	生命機能学科				
	生物環境学科				
法文学部	人文社会学科(夜)	267,900円	141,000円	62,760円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>入学時に全ての学生に配置された「学生生活担当教員」が、学生自らが記録する「学修ポートフォリオ」（入学から卒業までの学修（正課教育だけではなく、正課外活動や準正課教育を含めた幅広い“学び”）を記録したもの）を参照しながら、指導・助言を行っています。</p> <p>また、各教員はオフィスアワーを設定しており、学生は予約なしで研究室を訪問することができます。さらに、学習の具体的な悩みを大学院生が聞いてアドバイスするスタディ・ヘルプ・デスク（SHD）を設置し、学生に近い大学院生からの学習支援を行っています。</p> <p>施設面では、図書館に加えて各学部等に自習室等を設置するとともに、授業のない時間帯の教室を開放して学習できる環境を整えています。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>就職ガイダンス、就職セミナー、キャリア支援セミナーなどの情報提供に加えて、企業関係者を学内に招いて業界研究会を開催するなど、貴重な機会の提供を行っています。また、エントリーシートや面接などの具体的な相談に対し、キャリア・アドバイザーが一人ひとりに合わせたきめ細かなアドバイスを行っています。さらに、無料バスによる就職支援ツアーを実施し、首都圏での就職活動も支援しています。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>医師・看護師が常駐する「総合健康センター」では、急病・ケガ等に処置を行うとともに、心身の不調や学生生活の悩み等に対して精神科医や臨床心理士が相談に応じる「こころの相談」窓口を設置しています。加えて、対面やWEBでも幅広く相談を受ける「何でも相談窓口」や、学習・就職に関する相談窓口など、様々な相談窓口を設置しています。また、近年増加しているハラスメントや悪質な勧誘等に対する安全対策教育の取組も強化しています。合理的配慮が必要な学生の相談は、在学生の協力を得ながらバリアフリー推進室において行っています。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：大学ホームページ 教育情報の公表</p> <p>https://www.ehime-u.ac.jp/disclosure/publication01/index/</p>
